図 7.15　うっ滞性皮膚炎（stasis dermatitis）
下腿に生じた浮腫性の紅斑ならびに暗紅褐色の浸潤を伴う落屑性湿疹局面．循環不全により，部分的に潰瘍形成も伴っている．慢性化すると硬化性脂肪織炎になる（下）．

図 7.16　皮脂欠乏性湿疹（asteatotic eczema）

なる．さらに血液還流不全により角化細胞が障害され，表皮の萎縮や落屑が起こり，潰瘍などを生じやすくなる．また，皮膚バリア機構が崩壊し，外来刺激に対する反応性が高まって湿疹病変を形成しやすくなる．

検査所見・診断

下肢静脈瘤の存在および皮疹の性状，分布から，診断は容易である．静脈瘤の病態把握のためにドップラー検査，血管造影などを行い，外科的治療適応の有無などを確認する．アレルギー性接触皮膚炎の存在が疑われる場合は，パッチテストなどを行う．

治療

湿疹病変に対してはステロイド外用．潰瘍を形成した場合は洗浄や創傷被覆材などを用いることがあるが，薬剤による接触皮膚炎に注意を払う．また，本症の進展阻止や予防のために慢性静脈不全に対する治療が不可欠となる．弾性包帯や弾性靴下による圧迫を基本として，安静，下肢挙上，長時間の立ち仕事の回避につとめる．静脈瘤が高度である場合は外科的治療も考慮され，硬化療法，結紮術，静脈瘤抜去術などを行う．

7．皮脂欠乏性湿疹　asteatotic eczema　★

加齢や入浴時の洗いすぎなどを背景に，皮脂や汗の分泌が減少した状態が乾皮症（asteatosis, xerosis．4 章 p.75 参照）である．皮膚バリア機能が低下しているため，外的刺激を受けやすい．その状態にさらに刺激性接触皮膚炎などが加わって湿疹化を生じた状態が本症である（**図 7.16**）．冬季など乾燥しやすい時期や環境の下で，とくに高齢者の下腿伸側で好発する（winter itch）．とくに日本人の多くの高齢者では，タオルで必要以上に皮膚をこすって洗う習慣をもつ場合があるため，外用薬を処方する前に，まず入浴時洗いすぎない，こすりすぎないという生活指導を行うことが重要である．乾皮症になる前に保湿剤を使用することが予防になる．湿疹が生じた場合はステロイド外用薬で湿疹を治療し，その後，保湿剤などでスキンケアを行う．

8．汗疱，異汗性湿疹
pompholyx，dyshidrotic eczema

手掌・足底に限局して，急激な経過で直径 2 ～ 5 mm 程度の小水疱が散在～多発する（汗疱，**図 7.17**）．さらにそれが刺激性接触皮膚炎などを合併し，指側面や手背に拡大して瘙痒を伴